



①②両国紹介プレゼンテーション③両国高校生によるダンス④市役所訪問⑤老人ホーム訪問⑥⑦球根生産場見学⑧VOC帆船復元施設での鍛冶屋体験



Broaden Your Horizons

オランダ王国 ノールトワイケルハウト市 姉妹都市交流事業

(青少年訪問団) 第3期生レポート 2015.3.2 ~ 14

■お問い合わせ 文化交流課交流推進班 内線2269

短期留学の目的

○コミュニケーション能力の向上

オランダの家庭へホームステイし、自分ひとりで会話をすること、または生活を通じて自己主張や家族との触れ合いによって、コミュニケーション力が向上します。

○英語力の向上

英会話が通じた際の喜びから英語力に自身を持つことができます。英語力の必要性を体感することにより、今後の取り組みが積極的になり、英語力向上が期待できます。

○ふるさとの文化を再認識

歴史的建造物、文化や習慣、家庭料理などオランダの魅力を体験することによって、平戸や日本文化に対する考えを見つめ直し、地元の魅力を再発見できます。

○将来へのスキルアップ

オランダの高校生や市内各学校の生徒同士で情報交換することにより、将来の目標を考える機会を得ることが出来ます。高校生の海外での体験は、進学や就職など、今後の人生において貴重な体験となります。

また、海外渡航にかかる手続きおよび両替(ユーロ)、交通規則、学校や家庭での日常生活の違いを体験することにより、国際的な視野が広がります。

この事業は、平成23年9月18日オランダ王国ノールトワイケルハウト市との姉妹都市締結を契機に平成24年度から実施し、高校生を相互派遣し短期留学(約2週間)という形で、異文化の生活を体験し、平戸の将来を担う子どもたちの国際的な視野を広げることが目的としています。

異文化を体験して、国際的な視野を学ぶ

3月2日から14日まで13日間の日程で、市内高校に在学している12人(男子6人・女子6人)と随員を含めた15人の訪問団でオランダを訪問しました。

留学中は、各パートナーの家庭にホームステイし、市内にあるレウエンホルスト中高等学校へ自転車通学しました。

学校では、歴史、科学や音楽など交流事業独自の教育プログラムを中心に学習し、また、パートナーが普段受けているオランダの授業にも参加しました。お互いの国紹介プレゼンテーションでは、両国の文化について発表し、日本の四季を通じて平戸の高校生の日常生活を紹介し、ダンスも披露しました。

最後に披露した両国生徒全員でのダンスには、第1・2期生も加わり、観覧していた保護者から大きな声援が上がっていました。

生徒たちの感想

猶興館高校 大浦 美貴

「コミュニケーション」

私は人見知りなので、自分の意見が言えないとき、上手くいかないうちががあります。しかし、オランダ人メンバーと一緒に過ごすことで、少しずつそんな自分が変わったと思います。例えば、「自分はこれが良い」「あれがやりたい」など自分の意見が言えるようになり、自己主張が前よりできるようになりました。人から質問されたときなど、きちんと主張しないと相手に失礼ですし、自分も損することにもなります。

この体験があつて、自分から言わないと意見や気持ちは伝わらないと気づきました。



北松農業高校 前原 陽輔

「オランダの地形」

オランダで最初に驚いたことは、平地であるため地平線が見えたことです。日本では、山や坂などが多いため、あまり地平線を見たことがなかったので、すごく感動しました。作物などを栽培するのに適していると思いました。



保護者の感想

10月受け入れの際、言葉も文化も習慣も違う191cmの高校生が我が家にやってきました。息子の英語も少しずつ通じるようになり、涙の別れから、3月の訪問時には、パートナーのアルバイト先で血洗いをしたとき、「一緒に働かないか?」と言われたと笑っていました。(田中)

【第4期生の募集】

募集人員 12人(男女各6人)
対象者 市内に住所を有する
高校生(2年生(市内の
高校に在学している人)
応募締切 平成27年5月15日(金)
(各学校へ提出)
お問合せ 文化交流課交流推進班
内線2269



学校の外では、市役所を表敬訪問、老人ホームでのボランティア活動、チューリップなどの球根生産場見学、VOC帆船復元施設を訪問したりと、オランダの文化を体験しました。